



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30~13:30
 例会場：卯辰山・ホワイトハウス
 事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所
 TEL <0762> 63-1151
 会長：越野 民男 幹事：浅田 豊久
 情報委員長：清水 忠

1976・6月3日

第66号

“希望ある社会を造るために”

北陸大学教授 角間 太郎先生



張りつめた受験勉強、予備校化された教育コンペアーからの解放感が一度に噴出するためだろうか。今年の東大の五月祭では女子学生は、“ベルサイユの薔薇”というリラックスした劇を演じたという。又、虚脱化しノイローゼ化した五月病の学生が、日本のあちこちの大学に瀾漫しているという。

更に重要なことは、殆どの大学生が、何故勉強しなければならないのか、学問の目的や生きる目標を掴んでいないということである。こういった日常的生きがい不在の暗い現代社会の風潮の中で、彼等に希望を与えることは、われわれ教育者の今日的責務である。

教育者の立場からいうと、明治以後のわが国の大学では、専門化され分化された学問的知識や技術の教育のみに力点がおかれ、人間を根源的に凝める総合科学としての哲学的視野が欠落していたと思う。

又、西欧若しくはアメリカの物質文明中心の史観に左袒して、広く他民族の持つ精神文化の可能性をも探究する文明論的史観が失われていたことも否定できない。

この誤りの反省に立って、広い視野から社会と自然を探究し、ヒューマンな人間を形成していくように学生を育てたいと思っている。

—金沢北RC例会卓話より— (文責 清水 忠)



卯辰山碑林散歩 (34)

—ホルトマン家墓碑—

横空台にひっそりと建っている。

ホルトマンは明治8年金沢に来たオランダ人の医家。金沢医学館(金沢大学医学部の前身)医官として着任、西洋文化の移入に大きく貢献した。

私の職業奉仕

小杉善二

——我が国に於るマッチ製造の創始者清水誠の事歴——

始祖清水誠（旧姓は嶺）である、彼は弘化2年（1825年）金沢に生れ、明治3年金沢藩の命をうけてフランスに留学し、初め造艦のことを学んだが、一方マッチの製造にも興味をおぼえ本務のかたわら、この研究を行った。明治8年（1875年）帰朝し東京芝三田四国町の吉井友実の別邸に仮工場を設けて黄燐マッチを製造し、この時できたマッチを皇室に献上した。

この仮工場で作業する一方、本所柳原に本工場を建設し新燧社と名付け、自ら社長となり、明治9年（1876年）12月に操業を開始した。

当時同氏が苦心したのは、軸木原木の自揚と原料薬品との入手であったと伝えられておる。またこの時はじめてドイツ式軸列機が設置された。明治11年7月政府の命を奉じて再度渡欧し、ドイツ・スウェーデンなどにも遊び、有名なスウェーデンのイオン・コピングマッチ工場も視察した。そして同12年4月帰朝すると前記新燧社工場は火災により灰燼に帰っていた。



清水誠先生顕彰碑

昭和39年9月建立 畠山一清謹書

マッチ百年祭

昭和49年5月19日 卯辰山顕彰碑前

北陸広構会会長・全広構理事
小杉善二

これに屈せず最新の知識を以て新らしく機械を設置して再興し安全マッチも製造するに至ったといわれる。同氏は諸種の事情により、明治21年マッチの製造より退き帰郷した。

その後大阪に出て主としてマッチ製造機械の考案に努力し、明治32年2月8日大阪病院で病没した。享年55才であった。後年従5位を贈られ、大正4年従4位追贈あり。

——私とマッチの出合は広告用マッチです——

最初は40年程前新町にダンスホールがありました。其の経営者先生より今にして見れば実に高価なラベルを作ったのが思出に残って居り戦後は広告マッチはサービス品か、広告媒体として平常使われるようになりました。

今は不況と自動点火器、ライターにより全国的に量的では半分に落ち込み、マッチメーカーも大混乱をして居ります。清水先生もあの世で御心配の事だと思えます。

卯辰山の先生の碑は昭和34年、地元業者、政財界郷土史家、県外メーカー等5ヶ年に渡り資金をあつめ努力の決果39年に建立して居ります。

米山記念奨学会とは——

日本ロータリーの創始者、米山梅吉氏は昭和25年、78才で逝去された。東京RCでは故人の偉徳を記念するため単独で、タイ、インドなどから数名の奨学生を招いたのが始まりで、昭和33年には“米山記念奨学会”が創立され、主として東南アジア諸国の学徒を日本に招く国際親善と理解が目的である。

RIには“ロータリー財団”があり、日本の協力度は米国に並ぶ多額となったので、この力を割いて今後は“米山記念奨学会”へ協力するのも、国際奉仕への近道である。

人間らしさを求めて (1)

渡辺 和子 先生



——人間性の感覚は未だ私を去っていない——

19世紀ドイツの偉大な哲学者カントの晩年であつた。

齢80で死を目前にして病いの床に臥つていた或る日、主治医が見舞つた。

カントは病苦に呻吟しながらも床の上に坐り直して医者をして礼儀正しく迎え、そして再び床に伏して、満足げに云つた。

“人間性の感覚は未だ私を去つていなかった!!”と。

死への怖れと病苦という極限状況にありながら、その肉体的諸条件に打ち克つ精神的な力の

存在を確かめ得た喜びを、素朴に表現したカントの姿は、その席に臨んだすべての人に深い感動を与えたという。

最も本源的な人間らしさは、肉体的条件に打ち克つ精神力を発揮することであり、そこにこそ他の動物に比類のない人間の尊厳、人間存在の眞の価値がある。

ビクター・フランクルも云つてゐるやうに、人間の眞の自由は、肉体的諸条件からの自由ではなくて、精神的諸条件への働きかけの自由でなければならない。

カントの偉大な魂は、この人間らしい自由、人間らしい生き方について、時空を超越して普遍的な摂理を、現代のわれわれに強く訴へてゐる。

——小さきは小さく花咲かん——

神学を学ぶためにドイツに留学した一人の若者がこう語つた。

“キリスト教の伝統を持った国から来た人達と日本人との間には、哲学・神学の理解に於いて最初から大きな距たりがあり、且つ言葉の不自由もあつて、大きな劣等感にさいなまれていた。

ところが或る朝、学園の庭の片隅に懸命に花咲く一輪の小さな草花を見た時、その生命力に大きな感動を憶えた。小さきは小さく花咲かんという境地を見出して、私は心が開かれた”と。

けれど現代は、余りにも豊かな社会の中で、まわりと比較しながら自信のない人生を送る人の如何に多いことだろうか。

しかし、W.L.マイセルも云うやうに、人生は、人生に向つて私の人生にはどういう意味があるのかを問うのではなくて、人生の方から貴方の人生にどういう意味を与えながら生きて来たかを問われるものであり、答えるものでなければならない。

人と比べないで、自分の精一杯の努力で、自分なりの花を咲かせることこそ、最も人間らしい生き方であろう。

第131回例会

◆ 5月20日(休)晴 ホワイトハウス 12:30～13:30



1. 講話
“南極スライド”
金沢東RC 松本由君
2. 出席
出席29名、欠席16名
出席率64.44%
3. 来訪者
河北RC 細井忠雄君
福山南RC 竹野武君
松任RC 湯村光造君
金沢RC 山本清嗣君
坪野俊雄君
齊藤隆三君、門田正君
沖中和雄君、北山雄康君
中川春三君、佐山好三君
金沢東RC 松本由君、加藤義一郎君
大友佐泰君、山上嘉久君、野村清君
金沢西RC 大沢欣伍君
坂本宗一郎君、松村弘君
金沢南RC 米谷半平君、成瀬栄蔵君
柿木英夫君
4. 幹事報告 ○ 新旧合同理事会開催
と き 5月20日(休) 午後6時30分
ところ 石亭
○ 第8回金沢5RCゴルフ大会開催
と き 5月22日(土)
ところ 片山津ゴルフクラブ
参加者 山上君、大村君
○ 美濃RCより“20年の歩み”受領。
5. 今日のニュース ロッキード事件で深刻化した政局混迷の中で、椎名副総裁は三木首相の退陣を工作、福田、大平、田中氏の同調を呼びかけ。一方三木、中曽根氏は退陣に強く抵抗し、自民党派閥争いは愈々激化の様相となる。

第132回例会

◆ 5月27日(休)晴 ホワイトハウス 12:30～13:30



1. 講話
“希望ある社会をつくるために”
北陸大学教授
角間太郎氏
2. 出席
出席27名、欠席18名
出席率60.00%
3. 来訪者
小松RC 岩谷泰州君
金沢RC 石黒伝六君
河野信次郎君
大樋長左衛門君、佐山好三君
中村外志郎君、田端二郎君
金沢東RC 新子静雄君、中田尚君
矩幸成君、山上嘉久君、林敏雄君
中島徳太郎君、松川藤右衛門君
浅田裕久君、中土居啓君
金沢西RC 黒川存君、丸山弘記君
三坂健康君、吉田茂平君
金沢南RC 久保健君
4. 幹事報告 ○ 1976～77RID-361地区年次大会ご案内
と き 1976年10月10日～11日
ところ 上野市立西小学校体育館
登録料 会員 6,000円
家族 4,000円
○ 新委員会編成発表
○ 内浦RC 認証状伝達式ご案内
と き 5月29日(土)午後1時登録開始
ところ 内浦町立福祉センター
出席者 釣見、出島君
5. 今日のニュース サンボアンガ空港でフィリピン航空機乗っ取りさる。ゲリラと政府軍の銃撃戦によって航空機炎上。ゲリラ3人、乗客10人死亡の惨事となる。

〰〰〰

理事会報告

と き 1976年5月20日
ところ 石亭

1. 会長挨拶
2. 次期会長挨拶
3. 報告事項
○ 5RC 合同役員会
○ 優良児童図書のか
○ 5RC 合同会計分担金の件
4. 協議事項
○ 1976～77年度委員会編成右の通り
○ 地区協議会
日時 6月27日(日) 8:30登録開始
場所 山中町社会教育文化会館
当クラブ出席義務者は午前8時、山岸製作所前に集合、乗用車にて出発。

1976～1977 委員会編成

- | | |
|---------|----------------------|
| 社会奉仕委員会 | 委員長 小杉(善) |
| | 6名 笠間、高田、出島、庄田、岡田(兼) |
| 職業奉仕委員会 | 委員長 土原 |
| | 5名 泉、吉田、由井、上(兼) |
| 国際奉仕委員会 | 委員長 若野 |
| | 4名 山上、木島、小杉(守) |
| 企画委員会 | 委員長 東元 |
| | 6名 山岸、水野、岡部、中村、岡田(兼) |
| 修練委員会 | 委員長 大村 |
| | 5名 山田(安)、越野、柴田、浅田 |
| 親睦委員会 | 委員長 塩村 |
| | 6名 大海、加藤、木田、佃、釣見(兼) |
| 情報委員会 | 委員長 清水 |
| | 5名 吉山、米沢(修)、松本、桜井 |
| 拡大委員会 | 委員長 米沢(繁) |
| | 3名 山田(淳)、大場 |
| 例会委員会 | 委員長 本江 |
| | 4名 長野、俵、小林 |